

令和7年11月6日

令和7年度 第2回岡山県健康の森学園支援学校 学校運営協議会【議事録】

令和7年10月28日(火) 10:00~11:40 会議研修室

進行:上野副校長

記録:杉山

1 開会

学校運営協議会運営委員長 挨拶(岡本会長)

学校運営協議会が発足してから2年半になるが、教育環境が整ってきた実感がある。協議の中では、「広大な自然を生かした教育活動」「訓練班活動(商品開発)」のアイデアを求められているので、忌憚のない御意見をいただきたい。

校長挨拶(定久校長)

収穫祭と作品展が盛会に終わり、御礼申し上げます。8月下旬より前期の反省を行い、後半への活動に向けての取組が始まっている。プロジェクトに向けて御意見をいただき、実行できるよう進めていきたい。

2 日程及び資料の確認(上野副校長)

・欠席者の確認(長谷川委員、田邊由美委員、宮崎委員、若林委員、山田委員 5名欠席)

3 議 事 進行:岡本会長

○事務局からの報告

①地域連携室会の取組(山崎主幹教諭)

地域連携室会を5回(第6回目は本日)実施し、教育支援のボランティアをつなげてきた。高等部では、地域の方から盆踊りを教えていただいたことで、地域の祭りに参加することができた。

今年度は、健森応援団ボランティアとの垣根をなくすことによって、スピード感をもつことができた。また、本校卒業生の保護者がボランティアに参加してくださり、卒業してからも学校への支援をしていただけることに、学校への思いを感じた。第1回学校運営協議会での懸案事項であった学校への交通手段、交通費の課題が委員の皆様の協力で解決できたため、新見公立大学の学生ボランティアの参加が可能になり、地域と連携した教育活動が充実した。

②学校評価について(鈴井総括教務)

保護者アンケートについて、経年経過を見ていくため同じ内容にしているが、I ④子供の人権やプライバシーが尊重されている。(いじめが起きにくい環境づくりを含む。)を追記している。今後の流れについては、要項P4に記載の通りである。また、R6年度の反省より、「わからない」を集計から外していると、「わからない」人の評価ができないのではないかという意見があった。そのため、R7年度のアンケートでは「E わからない」をなくした。「わからない」が多い項目については、I ⑦ II ② III ③ III ⑥ III ⑧であるが、保護者に伝えきれていない内容について、今後、伝え方を考えたり、保護者の受け止め方を探ったりしていきたい。

教職員アンケートの課題として、I ⑧教育活動を行う上での教育条件(施設、設備、備品等)が整備されているが76%と低かった。また、「学校との寄宿舎との連携」の項目について、保護者と教職員との結果にギャップがあった。

○協議及び意見交換

テーマ：「本年度の取組を充実させるために」

①広大な自然を生かした教育活動のアイデア

「広大な自然を生かした教育活動の現状と課題」について説明（榊原指導教諭）

取組として、「ふれあいオリエンテーリング」などの行事、ミニ研修「健森を歩こう」、対話型研修講座をベネッセから講師を招き行った。また、授業の中では、小学部の山歩き、中学部のけんもりマップの作成、ベンチ、秘密基地の設置、中学部・高等部の訓練班作業を行った。寄宿舎では、余暇活動、寄宿舎フェスタなどを行った。

課題として、五感で体験できるダイナミックな活動ができる環境作り。子どもが「自然が楽しい」「自然が面白い」と気づく仕組みづくり。自然に出かけたくなる仕組みづくりなどが挙げられる。その中で、森と遊びながらダイナミックな活動を通して、本校の目標である「強い体」を育てるためにトンネル（木、つたなど）を作り教育活動を行っていきたい。材料の調達、造成のスキル、子どもと一緒に作るためのアイデアをいただきたい。

（岡本委員）トンネルに限定せずいろいろなアイデアをお聞かせいただければ。

（田中委員）市内で協力していただける企業様を紹介していただいた。連絡を取るようならつなげていきたい。

（名越委員）農業用のハウスの骨組みを利用して、フジのつるをはわせて、トンネルをつくるのもよいのではと思う。

（榊原指導教諭）場所はどこに作ったらよいか、アドバイスが欲しい。一般の方にも来ていただけるとよい。

（田中委員）場所としては施設内か、学園全体の敷地内のどちらのイメージか。施設内では、一般の方に来ていただくのは難しいのではないかな。

（定久校長）まずは学校の教育活動として、子どもたちが利用できることが大切。そこから、交流学习等で地域の小学校、中学校が活動できる場所になるとよい。子どもたちから発信する活動の場になればよい。

（田邊委員）ターザンロープなどの遊具は、子どもはとても喜んで活動を行い、強い体を育てる遊具としてよい。しかし、安全管理等で手づくりの遊具は、撤去されることもある。安全面についてクリアしていかなければならないことがある。

① 訓練班作業（商品開発）のアイデア

「訓練班作業（商品開発）の現状と課題」について説明（大倉高等部教頭）

高等部での、健森の自然を生かした作業、商品について説明。その中で、農産班の「森のみそ」が近年の異常気象による大豆の収穫量の減少、温度管理の難しさからの品質低下から、無期限休止を決定した。代替案として、収穫に左右されず、通年販売が行える、学園の農産物を使用した加工品を開発していく。

（名越委員）サツマイモや、哲西栗を使用した商品ができるとよい。

（岡本委員長）コーヒーセットとして提供できるアイデアはよい。

（田中委員）石灰会社の坑道を利用するのはどうだろうか。夏でも15℃程度の一定の気温が保てる。

（赤木委員）「森のみそ」は栽培から加工まで行うことができ学習としてはよい教材だが、大豆栽培の難しさもある。

（田邊委員）いろいろな課題が解決し、条件が整えば、再開をしていけばよい。

4 諸連絡（上野副校長）

・（上田事務部長）森のおみせのパフレットを、健森応援団に作成していただいた。

今後の学校運営協議会の予定

・第3回学校運営協議会 令和8年2月9日(月) 10:00～

5 閉会挨拶(名越副会長)

収穫祭と作品展が終わり、行事での経験を通して子どもの成長を実感している。今後とも、委員の皆様やボランティアで協力してくださる皆様方のお力添えをいただきたい。